

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

R7. 1. 23～1. 30 第5回協議会

(案)

資料No.4-2

【協議事項】
令和 7 年 1 月 23 日

協議会名:	三条市地域公共交通協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
越後交通株式会社	福沢線 (福沢～長沢駅跡)	三条市内の下田中学校及び 大崎学園後期の卒業生に対 し、利用時間、利用方法、循環 バスや自転車駐車場の案内な どを記載したチラシを配布し、 周知を図った。(R6.3)	A	計画どおり事業は適切に実 施された。	B 福沢線については、目標 に掲げた日平均利用者数2 人に対し、0.5人／日と前年 度の実績(1.3人／日)より、 0.8人減少し、目標を達成で きなかった。 福沢地区の高校生の減 少及び下田地区から三条 高校及び県央工業高校へ の進学者の減少があったも のと推察される。 高校生通学ライナーバス (東三条駅～県央工業高等 学校)については、目標に 掲げた日平均利用者数15 人に対し、24.4人／日と前 年度の実績(23.8人／日)を 0.6上回る数値となり、目標 を上回った。
	高校生通学ライナーバス (東三条駅～県央工業高等学 校)		A	計画どおり事業は適切に実 施された。	
越後交通株式会社	市内循環バス三条循環線 (市内)	路線バスと循環バスの時刻 表と経路図をセットにした「三条 市バスマップ」を引き続き窓口 に設置し、情報発信に努めた。 (R6.4～)	A	計画どおり事業は適切に実 施された。	B 目標に掲げた日平均利用 者数が38人に対し、59.6人 ／日であり、前年度の実績 (48.7人／日)から10.9人／ 日増加し、目標を上回っ た。※各コースの内訳(三 条循環線 目標25人、実績 48.7人)、(井栗線 目標8 人、実績4.9人)、(嵐南コ ース 目標5人、実績6.0人) 令和4年10月からのバス の再編に伴う路線見直しに より、増加したものと推察さ れる。
	市内循環バス井栗線 (市内)		A	計画どおり事業は適切に実 施された。	
	市内循環バス嵐南コース (市内)		A	計画どおり事業は適切に実 施された。	
株式会社エス・タクシー	三条市デマンド交通 (三条市内)	デマンド交通をより多くの方 から利用していただけるよう、 主な利用者である高齢者が集 まる場に足を運び、デマンド交 通の制度の概要や利用方法、 停留所等について話をする出 張説明会を51回開催した。 (R5.10～R6.9)	A	計画どおり事業は適切に実 施された。	B 土日も含む全日運行につ いて、目標に掲げた日平均 利用者数が180人に対し、 147.6人／日(前年度は 168.1人／日)であり、目標 を下回った。 また、土日の運行につ いて、目標に掲げた土曜日の 日平均利用者数40人、日 曜日の日平均利用者数15 人／日に対し、土曜日が 83.7人／日、日曜日が48.4 人となった。前年度の実績 と比較して、土曜日が8.8人 (前年度は74.9人／日)、日 曜日が3.9人(前年度は44.5 人／日)の増加となり、目標 を上回った。 前年度(令和4年10月～ 令和10年9月)より、数値が 少し減少しており、コロナ禍 前の利用状況には戻ってい ない。
三条タクシー株式会社			A	計画どおり事業は適切に実 施された。	
中越交通株式会社			A	計画どおり事業は適切に実 施された。	
日の丸観光タクシー株式会 社			A	計画どおり事業は適切に実 施された。	

【凡例】
A: 事業が計画に位置づ
けられたとおり、適切に
実施された
B: 事業が計画に位置づ
けられたとおりに実施さ
れていない点があった
C: 事業が計画に位置づ
けられたとおりに実施さ
れなかった

【凡例】
A: 事業が計画に位置づ
けられた目標を達成した
(する見込み)
B: 事業が計画に位置づ
けられた目標を達成でき
ていない点があった(一
部達成できない見込み)
C: 事業が計画に位置づ
けられた目標を達成でき
なかった(達成できない
見込み)

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

【協議事項】

令和7年1月23日

協議会名：	三条市地域公共交通協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	市内の中でも山間地域の多い下田地区を始め三条市全域における交通空白地域を生み出さないためのバス等の公共交通の維持存続は極めて重要であることから、次の系統において運行確保を図っている。 I 福沢線 下田地域の交通拠点である長沢駅跡までの枝線の存続が重要であり、特に高校生の通学手段として不可欠であることから、同路線の運行確保を図っていく。 II 高校生通学ライナーバス 昭和59年度にJR弥彦線(下田地区)が廃止され、同地区高校生の通学手段の確保が重要なため、八木ヶ鼻温泉線の利用者が、東三条駅において、別の車両に乗り換えせずに市内の高校(三条高等学校・県央工業高等学校)へ移動する貴重な交通体系であることから、引き続き、八木ヶ鼻温泉線と同様に、同路線の運行確保を図っていく。 III デマンド交通 市内全域において、タクシー車両等を活用して専用の停留所間をダイレクトで運行し、1日平均約148人、土曜日は1日平均約84人、日曜祝日は1日平均約48人の利用を得て当市における公共交通手段の中核として不可欠なものとなっていることから、今後も運行確保を図っていく。 IV 市内循環バス ■井栗線 主として井栗地区の小・中学生、高校生の通学手段として、また、東三条駅に接続することで新潟・長岡方面への通学に活用されており重要な交通手段となっているものの、効率的な運行を図るために、令和4年10月から経路を短縮し、東三条駅止まりとし、市内の高校(三条高等学校・県央工業高等学校)への移動は、別路線の時刻表改正で対応を行った。 ■三条循環線 新幹線駅である燕三条駅、国道8号沿線のショッピングセンターなどを経由し、三条市の主要な施設への移動手段として、1日5便、土日も運行するなど同バスの中心的な運行を担い多くの市民の足として必要であることから、今後も